

## 「時間を感じろ！」

2025・3・19 校長 重枝一郎

私は、クラス等でいじめ問題を取り上げる時、いじめが起こってからではなく、先手的に、いじめがないような雰囲気の際に、「このクラスは、なぜいじめがないのか？」と問いかけ、話し合わせていました。そして、最終的にそのための「学習ルール」「生活ルール」「対人ルール」の3つのルールを大切にすることをみんなで約束していました。

同じような発想で、遅刻常習生徒には、「遅刻しなかった日」に面談をするようにしていました。通常、遅刻した日に呼び出し面談を行いますが、だいたい「すいませんでした。気をつけます」で終わりがちです。生徒もどうせ怒られるから、早く済ませたい気持ちでしょう。そこで、遅刻しなかった日に、「なぜ遅刻しなかったのか？」という問いで、生徒と一緒に前日のことを振り返ります。

振り返りをすると、時間感覚がある生徒と、時間感覚がない生徒に出会います。

時間感覚がある生徒に対しては、帰宅してからの行動計画を立てることができます。

ところが、時間感覚がない生徒は、「何時に寝た？」という質問に、「わからない」「うーん2時か3時」みたいな感じです。そんな生徒には、生活ノートを作り、「起きた時刻」と「寝た時刻」を記入させます。それを意識させるだけでも遅刻が改善されることがあります。加えて、「夕食の時間」や「好きなことをした時間」を書かせるようにします。その生徒の家庭環境やその生徒が興味をもっていることの話の聞けることがあります。雑談につながるので、とても楽しかったりします。

このことからわかるように、時間感覚が（ある・なし）で、やり方も変わります。

私は、それでも時間感覚を持つことはとても重要と考えていたので、【時間を感じろ！】という言葉を用いた場面をいろいろと発信していましたが、すると生徒は、自分の自分たちの意識向上にこの言葉を活用するようになりました。

この【時間を感じろ！】という言葉は、生徒に、いろいろな受け止めがありました。例えば・・・

- ◆ 部活動の練習で、メニューを切り替えて、次の準備に取りかかる時、みんなで、【時間を感じろ！】と声を掛け合いながらキビキビと取りかかった。
- ◆ 小さい頃からピアノをしてきた生徒が、その積み重ねを自信にするために、【時間を感じろ！】と自分に言い聞かせていた。
- ◆ 修学旅行のタイムスケジュールを守る際は、学年全員の合言葉が【時間を感じろ！】になっていた。
- ◆ 3年生になって、受験に向かう気持ちを高めるために、【時間を感じろ！】という言葉が学年廊下に貼っていた。
- ◆ サッカー部の生徒が、【時間を感じろ！】という言葉を意識して練習したら、一つのプレースピードが上がったと言っていた。

このように、モチベーションアップに活用したり、これまでの自分を振り返ったり、集団のルール遵守の掛け声にしたりしていた。

春休みの過ごし方も【時間を感じろ】だし、勉強でも部活でも習い事でも【時間を感じろ】だし、家での過ごし方も【時間を感じろ】です。

みなさんも、【時間を感じろ！】という言葉を使ってみませんか